

- ・ 放射性セシウムは時間と共に体外に排出される。
- ・ 現在、実施しているホールボディ・カウンタ検査については、日常的な経口摂取の影響について調べている。
- ・ 1ミリシーベルト以上の数値が測定される原因は、ほぼ**食品由来**と考えられる。

※平成23年6月27日から福島県内全59市町村を対象に、ホールボディ・カウンタによる内部被ばく検査を行っており、平成27年12月31日までに約28万人の方を検査しましたが、平成24年4月以降、1ミリシーベルト以上の数値は計測されていません。

Q. もし検出限界以上の数値がホールボディ・カウンタ検査で検出されたら？

- A. 市場には流通していない放射性セシウム濃度の非常に高い食品類を多く摂取した可能性がある。
(例)野生のキノコ、山菜類、野生鳥獣(イノシシ、クマ等)の肉等

次の論文を参考に作成：

Masaharu Tsubokura, et.al. "Reduction of High Levels of Internal Radio-Contamination by Dietary Intervention in Residents of Areas Affected by the Fukushima Daiichi Nuclear Plant Disaster: A Case Series", PLoS One. 2014; 9(6): e100302., US National Library of Medicine, National Institutes of Health, Published online 2014 Jun 16

放射性セシウムは時間と共に体外に排出されるため、震災直後に摂取した放射性セシウムは、大方体外に排出されています。

現在、実施しているホールボディ・カウンタ検査では、日常的な経口摂取の影響について調べられています。内部被ばく線量として、年間1ミリシーベルト以上の数値が測定される原因は、ほぼ食品由来と考えられます。現在、市場に流通している食品を食べている限り、内部被ばく線量は、年間1ミリシーベルトを超えることはありませんので、もし年間1ミリシーベルトを超えた場合は、市場には流通していない放射性セシウム濃度の高い食品類を多く摂取した可能性があります。中でも野生のキノコが要因と考えられるケースが報告されています。

本資料への収録日：平成25年3月31日

改訂日：平成28年3月31日